

2024_1216 「一日遅れの赤いコールド・ムーン (写真)」 日々の理科 3784 号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

昨夜は今年最後の満月「コールド・ムーン」でした。この満月は、実は非常に特別な満月でした。満月は地球を挟んで、太陽とほぼ正対しています。天球上の「対日点」というあたりに位置しているのが普通です。従って、太陽の南中高度が高い夏には、満月の南中高度は低くなります。逆に、太陽の南中高度が低い冬は、満月の南中高度は高くなります。見かけの位置が太陽に近い「三日月」の場合は満月とは逆で、夏には高く、冬には低く見えます。

昨夜(2024年8月15日)の満月は、冬至に近い日の満月だったこともあり、東京(小石川)での南中高度(23:50)は、実に 82.566 度でした。満月が「ほぼ天頂」に見えたこととなります。満月がこれほど高く見えるのは非常に稀で、この 100 年間で 2 番目の記録だったそうです。これは、白道(天球上の月の通り道)が、黄道(天球上の太陽の通り道)より 4 度 51 分も北(天頂寄り)にずれていたためです。

月も太陽と同じように、ほぼ 365 日「黄道十二星座」のどこかに位置しています。昨夜の満月は「おうし座」の中にありましたが、詳しく計算してみると、明け方に月の一部が、黄道十二星座ではない「ぎょしゃ座」の領域を通過したこともわかりました。これも大変珍しい現象です。

その稀に見るすばらしい満月を、不覚にも私は見逃しました。それで一日遅れの月を撮影したのです。自宅マンション前から見た「北東微東」(北東と東北東の中間)の空から、真っ赤な月が昇ってきました。

(2024年12月中旬/文京区・文京区小石川)

